

新病院
START!

東京ベイ・浦安市川医療センター

東京ベイ・浦安市川医療センターは旧浦安市川市民病院からの移譲を受けて、2009年4月1日から地域医療振興協会直営施設となったが、老朽化した病院建物の建て替えのため、50床に規模を縮小して運営してきた。このたび待望の地上7階地下1階の新棟が完成。2012年2月26日、竣工式と関連イベントが盛大に挙行された。

安全祈願祭・除幕式・竣工式・内覧会

あいにくの寒空の中、神事に設けられた特設テントで、病院関係者列席の中、病院安全祈願祭が厳粛にとり行われた。

その後、院内エントランスにて、浅野嘉久野口医学研究所名誉理事から神山 潤管理者へ、野口英世博士の胸像が贈呈され除幕式が行われた。野口医学研究所は、野口英世博士の業績を記念し日米医学交流の促進を目的にフィラデルフィアに設立された米国財団法人である。東京ベイ・浦安市川医療センターは“Noguchi Hideyo Memorial International Hospital”を冠し、アメリカの優れた医師教育システムを取り入れた野口研修プログラム(NKP)と地域医療振興協会の研修プログラムを融合させたJADECUM-NKPの中心研修施設となる。JADECUM-NKPではACGME(米国卒後研修認定委員会)のスタンダードに準拠し、グローバルにも地域医療にも通用するジェネラリストを育成することを目指している。

続いて行われた竣工式、松崎秀樹浦安市長、大久保



新病院の外観

博市川市長の祝辞では両市から移譲を受けた当院への、地域住民の大きな期待が感じられた。神山管理者は挨拶の中で『医療を通じ地域の絆を育む』という理念のもと、これまで以上に愛され親しまれ信頼されるよう職員一同努力をしていきたい」と力強く述べた。

神山先生は東京医科歯科大学小児科出身で、協会が東京北社会保険病院の指定管理を受けた際に副院長として着任し、24時間365日の小児診療を実現。浦安市川市民病院移譲に際し準備室長を務め、センター開院とともに管理者に就任した。新病院は一般病床340床、感染床4床、15診療科、地域住民のための断らない医療を目指すと同時に、フィラデルフィアのトーマス・ジェファーソン大学名誉医学部長であるジョセ



安全祈願祭



除幕式



竣工式



神山 潤管理者



内覧会

フ・S・ゴネラ先生を名誉センター長に迎え、センターの国際化を図り、国際レベルの医療を提供していきたいと考えている。

病院内覧会では来賓や地域の人たちが職員の説明を受けながら院内を回った。多くの参加者から「広くて、綺麗だ」「これで市民は安心できる」という声が聞かれた。

開院記念 日野原重明先生特別講演会

午後からは会場を浦安文化会館に移し、野口医学研究所設立発起人に名を連ねる日野原重明先生(聖路加国際病院理事長・名誉院長)の講演会が開催された。タイトルは「百歳は次のスタートライン」。幾つになっても新しいことに挑戦する意欲と行動力が大切だと、ご自身の経験から語られた言葉に会場から度々拍手がわき起こった。第2部は、日野原重明祝祭管弦楽団による演奏。日野原先生作詞作曲の「愛の歌」では日野原先生自ら指揮棒をとられる姿も見られた。

「演奏者が楽しそうに演奏していると聴衆もハッピーな気持ちになる。初めはオーケストラのチームワークからチーム医療を連想しましたが、聴いているうちに演奏者と聴衆、医療者側と患者さん側だということをしみじみと感じました。医療者と患者さんが一体となって調和できる。そんな病院ができればいいと思っています」。演奏を聴いた神山管理者は語った。

新棟移転を祝う会

浦安ブライトンホテルを会場に行われた祝う会には、日野原先生はじめ大勢の来賓が出席したほか、全



日野原重明祝祭管弦楽団による演奏

国の地域医療振興協会関係者もお祝いに駆けつけ、新病院スタートへ大きなエールを送った。

「東日本大震災による液状化の影響で遅れると思っていたが、予定通り竣工することができた。この地域の医療だけではなく日本全国の地域医療を支援する、そういう病院を目指してやっていきたい」と話す宮崎国久先生は、これまでも副管理者として病院リニューアルオープンに奔走してきた。

一方、新たに副管理者として就任した木下順二先生は、国際基準であるJoint Commission Internationalの認証を2年後に取得すべく、責任者として活動を開始している。「全部で1,620のチェック項目があって、それをすべて満たすためにさまざまな院内の体制を整備する必要がある。そういった活動を通してより国際的にも通用するような病院づくりを目指して頑張っていきたい」と意気込みを語った。

センター長に就任した藤谷茂樹先生は、自治医大卒業



吉新通康理事長



宮崎国久副管理者



木下順二副管理者



藤谷茂樹センター長



志賀 隆救急部長

後の義務年限で外科医として働いた後アメリカへ渡り、内科の上に集中治療と感染症のボードを取得し、幅広いニーズに応えられる臨床医として活躍した。さらに屋根瓦式の教育が徹底しているアメリカの教育システムを学び、当院においてその応用還元を図る。

救急部長に就任した志賀 隆先生は、アメリカで学んだシミュレーション教育を現在当院で開設準備が進んでいる地域医療振興協会のシミュレーションセンターに活かして行きたいと考えている。



2012年4月1日、新しい可能性をもって生まれ変わった東京ベイ・浦安市川医療センターがいよいよスタートする。

【施設概要】

東京ベイ・浦安市川医療センター

〒279-0001 千葉県浦安市当代島3-4-32

TEL 047-351-3101 FAX 047-352-6237

管理者 神山 潤

センター長 藤谷 茂樹

開設者 公益社団法人 地域医療振興協会

管理運営 公益社団法人 地域医療振興協会

診療科目 救急科・総合内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・腎臓内科・集中治療科・外科・小児外科・整形外科・脳神経外科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・病理診断科・麻酔科(ペインクリニック含む)

病床数 344床(感染症4床含む)

職員数 359名(常勤医師80名)

コメント

野口英世記念米国財団法人
野口医学研究所名譽理事

浅野嘉久先生

今を去る29年前に日野原重明先生の肝入りで、野口医学研究所が設立されました。野口医学研究所の日本での出発点として、地域医療振興協会が運営する東京ベイ・浦安市川医療センターの医師教育に携わることになり、JADECOM-NKPという教育制度がスタートしています。JADECOM-NKPは、医療者主体ではなく、患者さんを主体としたチーム医療の提供できる医療者を育成するという理念のもとに、アメリカから学んだことを参考に創り上げた教育プログラムです。



医師、看護師、コ・メディカルスタッフは患者さんの苦しみと、喜びを共有できるチームでありたい。これが野口医学研究所のベーシックフィロソフィ(基本理念)です。

医師、看護師、コ・メディカルスタッフは患者さんの苦しみと、喜びを共有できるチームでありたい。これが野口医学研究所のベーシックフィロソフィ(基本理念)です。

野口英世記念米国財団法人
野口医学研究所理事長

ハワイ大学教授

町 淳二先生

私は25年程前から野口医学研究所とかがわっています。東京ベイ・浦安市川医療センターで本格始動するJADECOM-NKPには今後野口医学研究所が育成した指導医の協力を得、活動に協力したいと思っています。



われわれが掲げる3つの目標があります。
1つ目は、いろいろな患者さんに対応できるジェネラリストの育成。
2つ目は、断らない24時間救急。
3つ目は、国際的な医療。

この3つを大きな目標として、医師を育成し仲間を増やし協力しながら、国民のためによりよい医療を提供していくことが最終目的です。

地域医療振興協会と連携のもと、野口医学研究所の能力を最大限活用し世界標準の医療を東京ベイで展開して行きたいと思っています。